

【資料】

# 広島文教女子大学におけるコモンルーブリックの今後

溝渕 淳・渡川 智浩

Development of Common Rubric in Hiroshima Bunkyo Women's University

Jun Mizobuchi and Tomohiro Orikawa

## 1 本資料の概要

2017（平成29）年度より、広島文教女子大学（以下、本学）において3ポリシー、すなわち「ディプロマ・ポリシー（以下、DP）」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」が改訂された。とくにDPは、大学での学修の成果を明示するものである。本学でも今後その達成度をいかにして確認するのかが課題となる。加えて学年ごとに、あるいは、科目ごとに本学のDPがどのような形で達成されていくのかについて、詳細に検証する必要がある。

2017年度の3ポリシー改訂をうけ、資格科目を除いた卒業単位に数えられる科目について、それが各学科のDPに示された力（1～5）のうちのどの力を獲得することに寄与するのかがシラバスに明記された。結果、卒業単位の対象となる全科目について、DPを軸にしてカテゴライズすることが可能となった。以上のような前提のもと、今後本学においてDPと連動したルーブリックを作成する上での一助とすべく、本資料では以下の点を確認する。

- (1) DP（1～5）ごとの科目配置の偏りについて
- (2) 科目における到達目標とDPとの整合性について
- (3) 学年ごとの開講科目における到達目標について

これらの分析は今回本学5学科の専門科目に対して実施しており、教養教育科目については実施していない。(1)については、5つのDPに対して科目がどのようなバランスで配置されているのかを確認するためのものである。実際、本学には資格取得を目指す学科が多いため、偏りが見られる可能性も十分にある。もし偏りが見られた場合、それぞれの科目の授業計画を見直し、全体としてバランスがとれるようにしたり、あるいは、授業外の諸活動でそれを補ったりなど、さまざまな方策が考えられる。ここでは、まずは偏りが見られるという現実からスタートし、各科目間あるいは学科がカリキュラム・マネジメントに取り組むきっかけとなる情報を提供することを目指した。

(2)については、それぞれの科目の到達目標のテキストを分析し、DPに見られる表現との類似性が見いだせるのかを検討するための資料を提示する。本資料は、JUSTSYSTEMのTRUSTIAを用い、テキストマイニングを行ったものである。TRUSTIAはテキストから名詞や形容詞、動詞とそれらの使用頻度や係り受けのパターン等を抽出するアプリケーションである。また、分析に用いたシラバス内容は、2017年度のシラバス修正期間より前、2017年6月時点のものとなっている。

(3) については、前 (2) とは異なる視点で到達目標をテキストマイニングによって分析する。ルーブリック実践事例として参照されることの多い関西国際大学のルーブリックでは (※ 1)、学年ごとの到達目標を設定したり、ひとつのルーブリックで評価基準をやや多めに設け、同じ項目であっても初年次では下位のルーブリック (到達目標 4～0) で評価し、卒業年次では上位のルーブリック (到達目標 6～2) で評価したりという工夫がある。例えば、初年次で「S」評価を取得できるような到達目標 4 が卒業年次では「B」評価にしかない (つまり、卒業年次における「S」評価は到達目標 6 である)。このように学年を経て、学修を深めるにつれ到達目標がより深化し高度化することが本来の理想である。そこで、本学の 5 学科において、学年ごとに配置された科目の到達目標をテキストマイニングし、進学するにつれてより高度な到達目標を設定する傾向が見いだせるのかを検討するための資料を作成する。

なお、(2) については、1 科目で複数の DP への寄与が示されていた場合、いずれの分析にも組み込んだ。したがって表 1 で示された各学科の科目配置の総数は本来の開講科目数よりも多くなっている。また、(2)・(3) とともに、同一科目名で担当者が異なり、シラバスが同様の場合には表現が重複するため分析に組み込んでいない。逆に演習等、同一科目名であっても担当者の専門分野が異なるために、その評価基準の内容に違いが生じる場合、分析に組み込んだ。カリキュラムが変更となり、2017年度生からのカリキュラムでは不開講となる科目も存在しているが、2017年度時点で開講されている全科目を対象とした。

## 2 資料の提示と若干の分析

以下では資料の提示とともに、若干の分析を示す。

### (1) DP (1～5) ごとの科目配置の偏りについて

それぞれの科目が、DP に示されているどの能力の獲得と関連付けられているのかについて、学科ごとに示したのが下表である。

表 1 DP ごとの科目配置

|      | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | DP 5 |
|------|------|------|------|------|------|
| A 学科 | 67   | 5    | 78   | 119  | 63   |
| B 学科 | 71   | 28   | 19   | 56   | 8    |
| C 学科 | 17   | 5    | 5    | 36   | 13   |
| D 学科 | 19   | 9    | 19   | 47   | 6    |
| E 学科 | 10   | 7    | 92   | 48   | 7    |

それぞれの傾向に統一性が見られない。大まかな傾向としては、DP 2 「自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢 (自律性)」および DP 5 「豊かな人間性 (育心 育人)」を実現する科目が多く、学科で少ない。また、DP 4 「専門的な知識・技能の活用力」については、各学科で高い数値を示している。DP 1 「状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力 (実践力)」および DP 3 「リテラシーに基づくコミュニケーション力」については、低

い数値の学科と高い数値の学科が両極化している。

E 学科が DP 3 について高い数値を示していたり、A 学科が DP 5 について高い数値を示しているなど、学科ごとの特性をある程度見出すことができる。また、全学科に共通して存在している科目が、それぞれの学科でどの DP に関連付けられているのかをみると、ある程度学科の傾向を読み取ることができる。例えば、A 学科は DP 5 に多くの専門演習（ゼミ）をおいているが、B 学科や C 学科で専門演習は DP 1 におかれている。

各学科の学年ごとの科目配置とそれぞれの DP の関連付けは次表 2～6 の通りとなっている。なお右端は、複数の DP と関連付いている科目の数である。

表 2 A 学科 学年ごとの科目数

|      | 科目数 | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | DP 5 | 複数 |
|------|-----|------|------|------|------|------|----|
| 1 年次 | 19  | 0    | 1    | 6    | 19   | 0    | 7  |
| 2 年次 | 41  | 25   | 2    | 26   | 41   | 24   | 28 |
| 3 年次 | 55  | 41   | 2    | 42   | 55   | 38   | 45 |
| 4 年次 | 4   | 1    | 0    | 4    | 4    | 1    | 4  |

表 3 B 学科 学年ごとの科目数

|      | 科目数 | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | DP 5 | 複数 |
|------|-----|------|------|------|------|------|----|
| 1 年次 | 24  | 11   | 12   | 3    | 8    | 1    | 8  |
| 2 年次 | 48  | 19   | 8    | 6    | 21   | 1    | 5  |
| 3 年次 | 52  | 29   | 4    | 9    | 23   | 4    | 9  |
| 4 年次 | 18  | 12   | 4    | 1    | 4    | 2    | 2  |

表 4 C 学科 学年ごとの科目数

|      | 科目数 | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | DP 5 | 複数 |
|------|-----|------|------|------|------|------|----|
| 1 年次 | 11  | 2    | 3    | 2    | 9    | 6    | 11 |
| 2 年次 | 11  | 6    | 0    | 2    | 11   | 3    | 11 |
| 3 年次 | 13  | 6    | 1    | 1    | 12   | 4    | 11 |
| 4 年次 | 4   | 3    | 1    | 0    | 4    | 0    | 4  |

表 5 D 学科 学年ごとの科目数

|      | 科目数 | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | DP 5 | 複数 |
|------|-----|------|------|------|------|------|----|
| 1 年次 | 15  | 3    | 0    | 6    | 12   | 0    | 5  |
| 2 年次 | 20  | 4    | 2    | 3    | 15   | 0    | 4  |
| 3 年次 | 23  | 11   | 6    | 9    | 14   | 5    | 11 |
| 4 年次 | 7   | 1    | 1    | 1    | 6    | 1    | 1  |

表6 E 学科 学年ごとの科目数

|      | 科目数 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | 複数 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1 年次 | 19  | 3   | 3   | 10  | 7   | 1   | 4  |
| 2 年次 | 23  | 1   | 1   | 11  | 14  | 0   | 4  |
| 3 年次 | 41  | 4   | 4   | 24  | 23  | 3   | 16 |
| 4 年次 | 8   | 2   | 0   | 2   | 3   | 3   | 2  |

全体として、2～3 年次に多く科目が配置されている。逆に、各学科 4 年次の科目数が最低となっており、その次に数の少ない 1 年次の科目数よりもかなり少ない数になっていることが特徴である。

他には、DP4 に関連付けられた科目が 3 年次、さらには 2 年次で多く配置されている。全体の数としては多くないが、DP1 に関連付けられた科目もまた、2 年次及び 3 年次に配置されている。1 つの科目に DP を複数関連付けている科目の数は学科によって差が見られるが、全ての学科において、DP4 は単独で科目と関連付けられる傾向がみられた。

以上の結果の原因として考えられるのは、DP の各能力について、学科ごとの意見や捉え方の共有が不十分であることである。そのため、同じような内容の科目であっても、授業担当者によって、あるいは学科によって学修によって実現される能力にばらつきが生じる。今後は各学科内、各学科間でのカリキュラムマネジメントに向けた話し合いなどの組織的な取り組みを通し、DP の意味するところや科目との関連付けについてある程度の統一した見解を見いだす機会を用意する必要がある。

## (2) 科目における到達目標と DP との整合性について

科目の到達目標をテキストマイニングし、学科および DP ごとにまとめた。ここではその一例を紹介する。

(例) DP1 「状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力）」

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 名義句  | 頻度 | 順位 | 名義句  | 頻度 | 順位 | 名義句  | 頻度  | 順位 | 名義句 | 頻度 |
|----|------|----|----|------|----|----|------|-----|----|-----|----|
| 1  | 身    | 22 | 1  | 基底的  | 11 | 1  | できる  | 177 |    |     |    |
| 2  | 内容   | 22 | 2  | 論理的  | 9  | 2  | 理解する | 42  |    |     |    |
| 3  | 文脈   | 17 | 3  | 基本的  | 7  | 3  | する   | 39  |    |     |    |
| 4  | 自分   | 16 | 4  | 明確に  | 6  | 4  | まわら  | 39  |    |     |    |
| 5  | と    | 14 | 5  | 協働する | 6  | 5  | 発表する | 23  |    |     |    |
| 6  | 課題   | 14 | 6  | 必要だ  | 6  | 6  | 行う   | 21  |    |     |    |
| 7  | 学び   | 13 | 7  | わかる  | 5  | 7  | 求める  | 17  |    |     |    |
| 8  | レシジョ | 13 | 8  | 深い   | 4  | 8  | 通す   | 16  |    |     |    |
| 9  | 1    | 13 | 9  | 適切に  | 3  | 9  | つづら  | 16  |    |     |    |
| 10 | こ    | 13 | 10 | 意図的  | 3  | 10 | さむ   | 13  |    |     |    |

低リ受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名義句   | 頻度     | 順位 | 名義句 | 頻度   | 順位   | 名義句 | 頻度 | 順位 | 名義句 | 頻度 |
|----|-------|--------|----|-----|------|------|-----|----|----|-----|----|
| 1  | 内容    | わかりやすい | 3  | 1   | 身    | づける  | 15  |    |    |     |    |
| 2  | 考え    | 色々     | 3  | 2   | 内容   | 理解   | 13  |    |    |     |    |
| 3  | 理解    | 深い     | 3  | 3   | 学び   | 求める  | 10  |    |    |     |    |
| 4  | 事物    | 自然     | 2  | 4   | 目標   | 通す   | 10  |    |    |     |    |
| 5  | レシジョ  | わかりやすい | 2  | 5   | 意味   | 述べる  | 9   |    |    |     |    |
| 6  | 卒業内容  | 必要     | 1  | 6   | 内容   | 知る   | 8   |    |    |     |    |
| 7  | 教材分析  | 必要     | 1  | 7   | レシジョ | まとめる | 7   |    |    |     |    |
| 8  | 指導案作成 | 必要     | 1  | 8   | 文脈   | 読む   | 7   |    |    |     |    |
| 9  | 資料    | 必要     | 1  | 9   | レシジョ | 行う   | 6   |    |    |     |    |
| 10 | 基礎知識  | 必要     | 1  | 10  | 同源性  | 高める  | 6   |    |    |     |    |

図1 A 学科 DP1 科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 名義句  | 頻度 | 順位 | 名義句  | 頻度 | 順位 | 名義句  | 頻度  | 順位 | 名義句 | 頻度 |
|----|------|----|----|------|----|----|------|-----|----|-----|----|
| 1  | 理解   | 56 | 1  | 前向きに | 7  | 1  | できる  | 116 |    |     |    |
| 2  | 説明   | 21 | 2  | 深い   | 7  | 2  | 理解する | 29  |    |     |    |
| 3  | 文脈   | 19 | 3  | 基礎的  | 6  | 3  | なる   | 25  |    |     |    |
| 4  | テーマ  | 14 | 4  | 明確に  | 6  | 4  | 行う   | 18  |    |     |    |
| 5  | からだ  | 12 | 5  | 体系的  | 6  | 5  | 行う   | 14  |    |     |    |
| 6  | こころ  | 12 | 6  | 丁寧に  | 4  | 6  | 求める  | 10  |    |     |    |
| 7  | 卒業研究 | 12 | 7  | 代表する | 2  | 7  | まとめる | 10  |    |     |    |
| 8  | 発表   | 11 | 8  | 必要だ  | 2  | 8  | 関連する | 9   |    |     |    |
| 9  | 利用書  | 11 | 9  | 正しい  | 2  | 9  | 立てる  | 9   |    |     |    |
| 10 | 研究課題 | 11 | 10 | 論理的  | 2  | 10 | 通す   | 8   |    |     |    |

低リ受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名義句  | 頻度  | 順位 | 名義句 | 頻度   | 順位  | 名義句 | 頻度 | 順位 | 名義句 | 頻度 |
|----|------|-----|----|-----|------|-----|-----|----|----|-----|----|
| 1  | 人間理解 | 深い  | 7  | 1   | 仕組み  | 理解  | 8   |    |    |     |    |
| 2  | 姿勢   | 前向き | 7  | 2   | 研究計画 | 立てる | 8   |    |    |     |    |
| 3  | 研究課題 | 明確  | 4  | 3   | 基礎   | 理解  | 7   |    |    |     |    |
| 4  | 文脈   | 丁寧  | 4  | 4   | 方法   | 理解  | 7   |    |    |     |    |
| 5  | テーマ  | 明確  | 2  | 5   | 理解   | 理解  | 7   |    |    |     |    |
| 6  | 卒業研究 | 明確  | 2  | 6   | 物事   | 持つ  | 7   |    |    |     |    |
| 7  | 文脈内容 | 正しい | 2  | 7   | 自己反省 | 行う  | 7   |    |    |     |    |
| 8  | 理解   | 正しい | 2  | 8   | 文脈   | 読む  | 7   |    |    |     |    |
| 9  | ニーズ  | 的確  | 1  | 9   | 姿勢   | 養う  | 7   |    |    |     |    |
| 10 | 個々   | 的確  | 1  | 10  | 協同性  | 高める | 7   |    |    |     |    |

図2 B 学科 DP1 科目

## 広島文教女子大学におけるコモンループリックの今後

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句   | 頻度 | 順位 | 名詞句  | 頻度 | 順位 | 動詞句     | 頻度 |
|----|-------|----|----|------|----|----|---------|----|
| 1  | 力     | 7  | 1  | 基本的  | 4  | 1  | できる     | 29 |
| 2  | それぞれ  | 6  | 2  | 必要だ  | 3  | 2  | 理解する    | 9  |
| 3  | 方法    | 3  | 3  | 客観する | 2  | 3  | なる      | 8  |
| 4  | 実験    | 6  | 4  | 基本的  | 2  | 4  | まとめる    | 4  |
| 5  | 心理学   | 6  | 5  | 適切だ  | 2  | 5  | づける     | 4  |
| 6  | 日常生活  | 6  | 6  | 確実だ  | 2  | 6  | 応じる     | 4  |
| 7  | 心理学研究 | 4  | 7  | 効果的  | 1  | 7  | (表) けける | 4  |
| 8  | 実践活動  | 4  | 8  | さまざま | 1  | 8  | 生かす     | 4  |
| 9  | 身     | 4  | 9  | 高知的  | 1  | 9  | 活用する    | 3  |
| 10 | 役割    | 4  | 10 | 興味深  | 1  | 10 | 説明する    | 3  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句    | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句      | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|--------|--------|----|----|----------|--------|----|
| 1  | 実験     | 補綴     | 2  | 1  | 身        | 主語     | 4  |
| 2  | 観察     | 関係代名詞  | 1  | 2  | 理解       | 理解     | 3  |
| 3  | 出来事    | 関係代名詞  | 1  | 3  | 課題       | なら     | 2  |
| 4  | 日常生活   | 関係代名詞  | 1  | 4  | 事例       | なら     | 2  |
| 5  | 観察     | 適切     | 1  | 5  | 実験       | なら     | 2  |
| 6  | 使用     | 適切     | 1  | 6  | 問題       | なら     | 2  |
| 7  | 調査データ  | 適切     | 1  | 7  | 技能       | 生かす    | 2  |
| 8  | ソフトウェア | 必要     | 1  | 8  | 知識       | 活用する   | 2  |
| 9  | 手法     | 様々     | 1  | 9  | 力        | 生かす    | 2  |
| 10 | 統計分析   | 様々     | 1  | 10 | チェックポイント | なら     | 2  |

図3 C学科 DP1科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句     | 頻度 | 順位 | 名詞句 | 頻度 | 順位 | 動詞句  | 頻度 |
|----|---------|----|----|-----|----|----|------|----|
| 1  | 理解      | 7  | 1  | 基本的 | 6  | 1  | できる  | 39 |
| 2  | 管理栄養士   | 6  | 2  | 安全だ | 3  | 2  | 理解する | 18 |
| 3  | 結果      | 6  | 3  | 自主的 | 2  | 3  | 得る   | 6  |
| 4  | 目的      | 6  | 4  | 効果的 | 1  | 4  | 気づく  | 6  |
| 5  | 方法      | 6  | 5  | 積極だ | 1  | 5  | 行う   | 4  |
| 6  | 作成      | 4  | 6  | 体系的 | 1  | 6  | 応じる  | 4  |
| 7  | 身       | 4  | 7  | 適切だ | 1  | 7  | とら   | 3  |
| 8  | 骨介講義    | 4  | 8  | 最適だ | 1  | 8  | 活用する | 2  |
| 9  | 実験方法    | 4  | 9  | よい  | 1  | 9  | 行動する | 2  |
| 10 | 栄養ケアプラン | 4  | 10 | 十分だ | 1  | 10 | 含む   | 2  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句    | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句  | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|--------|--------|----|----|------|--------|----|
| 1  | 理解     | 安全     | 2  | 1  | 役割   | 理解     | 3  |
| 2  | 調理     | 安全     | 1  | 2  | 衛生管理 | 理解     | 3  |
| 3  | 栄養管理計画 | 最適     | 1  | 3  | 関わり  | 理解     | 2  |
| 4  | 音楽専    | 最適     | 1  | 4  | 結果   | 理解     | 2  |
| 5  | 課題     | 十分     | 1  | 5  | 評価   | 理解     | 2  |
| 6  | 実習施設   | 十分     | 1  | 6  | 決断   | 理解     | 2  |
| 7  | 対象     | 適切     | 1  | 7  | 実験   | 理解     | 2  |
| 8  | 目的     | 適切     | 1  | 8  | 実験方法 | 理解     | 2  |
| 9  |        |        |    | 9  | 実験方法 | づける    | 2  |
| 10 |        |        |    | 10 | 結果   | 得る     | 2  |

図4 D学科 DP1科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句       | 頻度 | 順位 | 名詞句   | 頻度 | 順位 | 動詞句  | 頻度 |
|----|-----------|----|----|-------|----|----|------|----|
| 1  | 能力        | 6  | 1  | 基本的   | 9  | 1  | 理解する | 18 |
| 2  | 観察        | 4  | 2  | 客観的   | 2  | 2  | できる  | 16 |
| 3  | ビデオプロジェクト | 4  | 3  | 積極だ   | 2  | 3  | する   | 4  |
| 4  | 観察/デモン    | 4  | 4  | 必要だ   | 2  | 4  | 聞きする | 4  |
| 5  | 説明        | 3  | 5  | 自覚する  | 2  | 5  | 活用する | 2  |
| 6  | 評価        | 3  | 6  | やりだ   | 2  | 6  | づける  | 2  |
| 7  | 概念        | 3  | 7  | ふさわしい | 1  | 7  | まとめる | 2  |
| 8  | 課題        | 3  | 8  | 新たな   | 1  | 8  | こなす  | 2  |
| 9  | 身         | 3  | 9  | 様々    | 1  | 9  | 活用する | 2  |
| 10 | 実習        | 2  | 10 |       |    | 10 | 情報収集 | 2  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句    | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句   | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|--------|--------|----|----|-------|--------|----|
| 1  | チームワーク | 十分     | 2  | 1  | 専     | 理解     | 3  |
| 2  | 重要性    | 十分     | 2  | 2  | 用語    | 理解     | 3  |
| 3  | 評価     | 十分     | 2  | 3  | 専門知識  | 理解     | 2  |
| 4  | 専門知識   | 必要     | 2  | 4  | 法制    | 理解     | 2  |
| 5  | 卒業研究   | ふさわしい  | 1  | 5  | 評価    | する     | 2  |
| 6  | 内容     | ふさわしい  | 1  | 6  | 卒業    | する     | 2  |
| 7  | 事例     | 様々     | 1  | 7  | 意見    | レポート   | 2  |
| 8  | 評価     | 様々     | 1  | 8  | 卒業テーマ | する     | 2  |
| 9  | 評価     | 新た     | 1  | 9  | 課題発見  | 解決     | 2  |
| 10 |        |        |    | 10 | 解決    | 解決     | 2  |

図5 E学科 DP1科目

DPのテキストマイニング結果に基づき、以下に頻度の高いキーワードを示す。

DP1については、深い理解やそれによって可能となるわかりやすさ（A学科）、深い人間理解や前向きな姿勢（B学科）、確実な実践、多様な視点、適切な情報等の取り扱い（C学科）、安全かつ適切なふるまい（D学科）、チームワーク（E学科）などとなっている。

DP2については、理論や技術の理解（A学科）、方法や知識を理解した上での簡潔な説明（B学科）、理論の理解、関わり（C学科）、資格および施設学校など働く場への理解（D学科）、チームワーク・専門知識（E学科）などとなっている。

DP3については、独自の見解やさまざまな考え（A学科）、的確なニーズの把握（B学科）、関連領域への理解（C学科）、的確な役割の把握（D学科）、さまざまな角度、高度な理解、積極的な取り組み（E学科）などとなっている。

DP4については、独自の見解や深い概念理解（A学科）、個々への的確なニーズの把握と知識の理解（B学科）、基礎知識への理解（C学科）、国家試験に向けた確実な知識の理解（D学科）、十分な認識と適切な文章、積極的な取り組み（E学科）などとなっている。

DP5については、深い理解、わかりやすい内容、いろいろな考え、討議（A学科）、生活に沿う、個々のニーズ把握（B学科）、広い視野と十分な理解、自己理解の深まり（C学科）、役割や使命の理解（D学科）、課題の発見・解決、自律・主体的実践（E学科）などとなってい



る。

図のように、どうしても使用頻度の高い用語や係り受けが上位にくるという面はあるものの、テキストマイニングの結果とDPとの具体的内容と関連性が強いとは考えにくい。むしろ、DP相互で似通っていたり、あるいは、例えば「自律・主体的実践」はDP5ではなくDP2の中で見られるべきものではないか…などと考えさせられる。ここでも先述（1）と同様、DPとして求められている力への理解と、それに基づく学科ごと、学科間でのカリキュラムマネジメントの必要性を感じさせられる結果となった。

### (3) 学年ごとの開講科目における到達目標について

続いて、科目の到達目標をテキストマイニングし、開講年ごとにまとめた。ここではその一例を紹介する。

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 語句  | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度  |
|----|-----|----|----|------|----|----|------|-----|
| 1  | 身   | 21 | 1  | 基礎的  | 10 | 1  | できる  | 110 |
| 2  | 内容  | 15 | 2  | 基本的  | 5  | 2  | 理解する | 92  |
| 3  | 文獻  | 14 | 3  | 論理的  | 5  | 3  | まとめる | 29  |
| 4  | 自分  | 14 | 4  | 積極的  | 4  | 4  | つづける | 17  |
| 5  | 心   | 11 | 5  | 客観的  | 4  | 5  | する   | 15  |
| 6  | 1   | 11 | 6  | 協働する | 4  | 6  | 行う   | 14  |
| 7  | 課題  | 11 | 7  | 必要だ  | 4  | 7  | 発表する | 10  |
| 8  | シミュ | 10 | 8  | 適切な  | 3  | 8  | 通す   | 12  |
| 9  | 考え  | 10 | 9  | 協力的  | 2  | 9  | 測める  | 11  |
| 10 | 討論  | 10 | 10 | 的確に  | 2  | 10 | 決む   | 11  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句   | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句  | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|-------|--------|----|----|------|--------|----|
| 1  | 内容    | わたりやすい | 2  | 1  | 身    | つづける   | 17 |
| 2  | 事例    | 自然     | 2  | 2  | 内容   | 理解     | 9  |
| 3  | 考え    | 色々     | 2  | 3  | 学び   | 深める    | 8  |
| 4  | 表現    | 的確     | 2  | 4  | 討論   | 通す     | 7  |
| 5  | 表現    | 適切     | 2  | 5  | 意見   | 述べる    | 7  |
| 6  | 基礎知識  | 必要     | 2  | 6  | 文獻   | 読む     | 7  |
| 7  | 指導案作成 | 必要     | 2  | 7  | 作品   | 完成     | 4  |
| 8  | 小学校   | 必要     | 1  | 8  | 力    | つづける   | 4  |
| 9  | 学習計画  | 必要     | 1  | 9  | 課題研究 | 行う     | 4  |
| 10 | 学習計画  | 必要     | 1  | 10 | シミュ  | まとめる   | 4  |

図6 A 学科3年次開講科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 語句  | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 |
|----|-----|----|----|------|----|----|------|----|
| 1  | 理解  | 39 | 1  | 基本的  | 7  | 1  | できる  | 66 |
| 2  | 習得  | 27 | 2  | 統合する | 6  | 2  | 行う   | 19 |
| 3  | 利用書 | 16 | 3  | 具体的  | 6  | 3  | 理解する | 19 |
| 4  | 知識  | 10 | 4  | 前向きに | 4  | 4  | 習得する | 9  |
| 5  | 役割  | 10 | 5  | 調い   | 4  | 5  | 測める  | 7  |
| 6  | 倫理  | 10 | 6  | 計画する | 3  | 6  | 行う   | 7  |
| 7  | 支援  | 10 | 7  | 明確に  | 3  | 7  | 通す   | 7  |
| 8  | 価値  | 10 | 8  | 的確に  | 3  | 8  | する   | 7  |
| 9  | 連携  | 8  | 9  | 習得する | 2  | 9  | わかる  | 5  |
| 10 | 規範  | 5  | 10 | 丁寧に  | 2  | 10 | 説明する | 5  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句         | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句         | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|-------------|--------|----|----|-------------|--------|----|
| 1  | 姿勢          | 前向き    | 4  | 1  | 仕組み         | 理解     | 5  |
| 2  | 人間理解        | 人間     | 4  | 2  | 倫理          | 定規     | 5  |
| 3  | 個人          | 的確     | 3  | 3  | 問題把握        | 把握     | 5  |
| 4  | 把握          | 的確     | 3  | 4  | 理論          | 理解     | 4  |
| 5  | ニーズ         | 的確     | 3  | 5  | 状態          | 応じる    | 4  |
| 6  | コミュニケーション能力 | 高める    | 2  | 6  | コミュニケーション能力 | 高める    | 4  |
| 7  | 文獻          | 丁寧     | 2  | 7  | 協調性         | 高める    | 4  |
| 8  | 卒業研究        | 明確     | 1  | 8  | かわり         | 通す     | 4  |
| 9  | 考え          | 円滑     | 1  | 9  | 物事          | 話し     | 4  |
| 10 | 支援          | 円滑     | 1  | 10 | 問題意識        | 話し     | 4  |

図7 B 学科3年次開講科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 語句     | 頻度 | 順位 | 語句    | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 |
|----|--------|----|----|-------|----|----|------|----|
| 1  | 心理学    | 10 | 1  | 新しい   | 8  | 1  | できる  | 17 |
| 2  | 内容     | 9  | 2  | 基礎的   | 3  | 2  | 理解する | 6  |
| 3  | 高文テキスト | 8  | 3  | 部分的   | 2  | 3  | 習得する | 4  |
| 4  | 心      | 5  | 4  | 基本的   | 2  | 4  | つづける | 5  |
| 5  | 心理臨床家  | 6  | 5  | 客観的   | 2  | 5  | 学ぶ   | 5  |
| 6  | 知識     | 5  | 6  | 必要だ   | 2  | 6  | 応じる  | 2  |
| 7  | 理解     | 5  | 7  | 効果的   | 1  | 7  | する   | 2  |
| 8  | 高校     | 4  | 8  | さまざまな | 1  | 8  | 持つ   | 2  |
| 9  | 家計     | 4  | 9  | 具体的   | 1  | 9  | 用いる  | 2  |
| 10 | 身      | 4  | 10 | 広い    | 1  | 10 | 測める  | 2  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句    | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句   | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|--------|--------|----|----|-------|--------|----|
| 1  | 高文テキスト | 新しい    | 8  | 1  | 身     | つづける   | 5  |
| 2  | 内容     | 新しい    | 6  | 2  | 概略    | 理解     | 2  |
| 3  | 心理学    | 新しい    | 2  | 3  | 理論    | 理解     | 2  |
| 4  | 理解     | 興味深い   | 1  | 4  | 討論    | 理解     | 1  |
| 5  | 出来事    | 興味深い   | 1  | 5  | 概要    | 理解     | 1  |
| 6  | 日常生活   | 興味深い   | 1  | 6  | 客観的   | 理解     | 1  |
| 7  | 議論     | 十分     | 1  | 7  | 研究領域  | 理解     | 1  |
| 8  | 心理臨床家  | 十分     | 1  | 8  | 議論    | 理解     | 1  |
| 9  | 家計     | 十分     | 1  | 9  | 心理臨床家 | 理解     | 1  |
| 10 | 手法     | 確々     | 1  | 10 | 共通性   | 理解     | 1  |

図8 C 学科3年次開講科目

語句トップ10

表示数: 10

| 順位 | 語句       | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 |
|----|----------|----|----|------|----|----|------|----|
| 1  | 理解       | 6  | 1  | 自主的  | 3  | 1  | できる  | 50 |
| 2  | 役割       | 5  | 2  | 客観的  | 2  | 2  | 理解する | 31 |
| 3  | 実践       | 5  | 3  | よい   | 2  | 3  | 説明する | 5  |
| 4  | 管理栄養士    | 5  | 4  | 系統的  | 1  | 4  | 答える  | 4  |
| 5  | 事例調査     | 4  | 5  | 良い   | 1  | 5  | 学ぶ   | 4  |
| 6  | 評価       | 4  | 6  | 効果的  | 1  | 6  | 実施する | 4  |
| 7  | 加工食品     | 4  | 7  | 正しい  | 1  | 7  | とら   | 3  |
| 8  | 栄養ケアプラン  | 4  | 8  | 代表する | 1  | 8  | 行う   | 3  |
| 9  | 栄養アセスメント | 4  | 9  | 協力的  | 1  | 9  | する   | 2  |
| 10 | 演習       | 3  | 10 | 統合する | 1  | 10 | 合わせる | 2  |

係り受けトップ10

表示数: 10

| 順位 | 名詞句    | 係り受け関係 | 頻度 | 順位 | 名詞句       | 係り受け関係 | 頻度 |
|----|--------|--------|----|----|-----------|--------|----|
| 1  | 栄養食品   | 確実     | 1  | 1  | 役割        | 理解     | 4  |
| 2  | 知識     | 確実     | 1  | 2  | 関わり       | 理解     | 3  |
| 3  | 栄養管理計画 | 最適     | 1  | 3  | 関係性       | 理解     | 2  |
| 4  | 事例集    | 最適     | 1  | 4  | 果実        | 理解     | 2  |
| 5  | 評価     | 十分     | 1  | 5  | 考え        | 理解     | 2  |
| 6  | 栄養相談   | 十分     | 1  | 6  | 食事        | 理解     | 2  |
| 7  | 食品衛生   | 重要     | 1  | 7  | 重要性       | 理解     | 2  |
| 8  | 健康     | 重要     | 1  | 8  | コミュニケーション | とら     | 2  |
| 9  | 栄養教育   | 今後     | 1  | 9  | 評価        | 評価     | 2  |
| 10 | 活動分野   | 多様     | 1  | 10 | 方法        | 評価     | 2  |

図9 D 学科3年次開講科目

語句トップ10

| 順位 | 語句       | 頻度 | 順位 | 語句  | 頻度 | 順位 | 語句   | 頻度 |
|----|----------|----|----|-----|----|----|------|----|
| 1  | AND      | 67 | 1  | 積極に | 7  | 1  | できる  | 31 |
| 2  | OF       | 49 | 2  | 結果に | 7  | 2  | 理解する | 14 |
| 3  | TO       | 39 | 3  | 確に  | 6  | 3  | する   | 12 |
| 4  | THE      | 32 | 4  | 最近に | 5  | 4  | なる   | 10 |
| 5  | A        | 27 | 5  | 基盤的 | 5  | 5  | 出来も  | 7  |
| 6  | STUDENTS | 26 | 6  | 強い  | 4  | 6  | つく   | 6  |
| 7  | CAN      | 20 | 7  | 必要に | 3  | 7  | まよめる | 5  |
| 8  | WILL     | 18 | 8  | 高度に | 2  | 8  | 取り組む | 5  |
| 9  | THEIR    | 14 | 9  | 結果に | 2  | 9  | 生かす  | 5  |
| 10 | BE       | 14 | 10 | 単純に | 2  | 10 | ある   | 5  |

係り受けトップ10

| 順位 | 名詞句    | 形動句 | 頻度 | 順位 | 名詞句      | 形動句  | 頻度 |
|----|--------|-----|----|----|----------|------|----|
| 1  | 内容     | 確々  | 4  | 1  | 英語教育     | する   | 6  |
| 2  | 内容     | 確々  | 4  | 2  | 児童       | する   | 6  |
| 3  | テキスト   | 簡単  | 2  | 3  | 対象       | する   | 6  |
| 4  | 重要度    | 十分  | 2  | 4  | 鼻        | つく   | 6  |
| 5  | 設備     | 十分  | 2  | 5  | 英語教育     | なる   | 6  |
| 6  | 次      | 簡単  | 2  | 6  | 積極的      | 取り組む | 5  |
| 7  | 設備     | 最近  | 2  | 7  | 500~800名 | 目指す  | 4  |
| 8  | 専門用語   | 必要  | 2  | 8  | toeic    | 目指す  | 4  |
| 9  | チームワーク | 十分  | 2  | 9  | 内容       | 検討   | 4  |
| 10 | 英語学習   | 高度  | 2  | 10 | 内容       | 理解   | 3  |

図10 E 学科 3 年次開講科目

学年ごとのテキストマイニング結果に基づき、以下に頻度の高いキーワードを中心に記述する。

1 年次については、広く基本・基礎を身につける (A 学科)、基礎・体系的理解 (B 学科)、広範・基礎的な知識や技術の理解 (C 学科)、基本的な知識の理解 (D 学科)、基本的・簡単な言語や情報の理解 (E 学科) などとなっている。

2 年次については、深い理解、正確かつ豊かな表現力 (A 学科)、具体的かつ正しい知識・方法の説明 (B 学科)、テキストや心理学への基本的な理解 (C 学科)、栄養の基礎的理解と説明 (D 学科)、適切な文章を書く、適切に内容を理解する (E 学科) などとなっている。

3 年次については、的確な表現、内容の理解、学びの深まり (A 学科)、前向きな姿勢や深い人間理解、仕組みの理解、倫理の定着 (B 学科)、心理臨床家としての基礎や理論の理解 (C 学科)、重要な知識や役割、業務の理解と自主性 (D 学科)、さまざまな問題や対象に対する理解と積極的な取り組み (E 学科) などとなっている。

4 年次については、独自の見解、関わり・パフォーマンス (A 学科)、深い理解や技術、自覚 (B 学科)、確実な力・役割、技能や知識を活かす (C 学科)、重要項目・知識の確実性、役割や業務、各専門職への理解 (D 学科)、積極的な取り組み、状況の理解 (E 学科) などとなっている。

ここでは、学年が進むにつれに学びの深まりが感じられる表現が増えている。開講時期が遅い科目ほど、その到達目標としてより高度なものが求められていることが見て取れる。

### 3 今後に向けて

前節で提示した資料を踏まえ、今後の課題について順を追って 3 点述べたい。

#### (1) DP に基づいたカリキュラムマネジメントの必要性

学年ごとに学びの深まりが見られる一方で、各 DP と、その力の獲得が実現するとされている各科目の到達目標との間に関連性があまり感じられない。今後シラバス作成の際 DP を踏まえた到達目標を提示していくことにより関連性が強まると予想される。しかし先述の通り、学科内や学科間で DP の具体的な内容やイメージの共有がなされない限り、今後もある程度のばらつきが生じよう。そのため、①学科内での DP に対する内容の確認と共有、②それを踏まえ

たカリキュラムマップの再整備が今後の大きな課題となる。その上で、③学科間および教養教育部とのDPの内容の確認と共有、④DP1～5に対してバランスのとれた科目配置、あるいは特色ある教育活動で補うことなども視野に入れたカリキュラムマネジメントが求められる。

## (2) ルーブリックの活用状況

DPが改訂されたことをきっかけとして、DPで提示された内容とその水準、さらに対応する科目を示した「カリキュラム・ルーブリック」作成に向けた大分大学における試みが存在している（※2）。かつて報告したように、本学では基礎的なアカデミックスキルについてのコモンルーブリックを作成してきた（※3）。2017年度実施の本学教員を対象としたアンケートでは、その利用状況は表7の通りとなった。また、何科目でコモンルーブリックを用いているのかについては、表8の通りとなった。

「レポート作成用」および「発表用」の「コモンルーブリック」以外に「コモンルーブリック」による評価が必要だと思うかとの問いには、回答数合計70のうち、「ある」が13（18.6%）、「ない」が53（75.7%）、無回答が4（5.7%）であった。表2で「コモンルーブリックを用いている」と回答した中でも「ある」が5（19.2%）、「ない」が21（80.8%）であった。コモンルーブリックの活用の有無にかかわらず、コモンルーブリックとして新たな項目を増やす必要性はそれほど認識されていない。活用率は決して低いわけではないが、今後の発展や新たな項目については明確な見通しが立てにくいというのが実際のところであろう。

表7 「コモンルーブリック」を評価に用いていますか  
(シラバスに明記していますか)

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 用いている             | 26 (37.1%) |
| 用いていない            | 28 (40.0%) |
| 用いていないが、これから用いる予定 | 14 (20.0%) |
| 無回答               | 2 ( 2.9%)  |

回答数合計 70

表8 何科目で用いていますか（シラバスに明記していますか）

|         |            |
|---------|------------|
| 約1～2科目  | 13 (50.0%) |
| 1科目以上   | 1 ( 3.8%)  |
| 約3～4科目  | 7 (27.0%)  |
| 約5～6科目  | 2 ( 7.7%)  |
| 約9～10科目 | 1 ( 3.8%)  |
| 無回答     | 2 ( 7.7%)  |

表2で「用いている」と回答した26のうち



### (3) DP とルーブリック、カリキュラムマネジメントを繋ぐ

本資料報告者は本学の FD・SD 研修会において、ルーブリック作成が学科や大学全体のアイデンティティを考え、確立する機会や、そのプロセスにおいて教職員が議論する機会の提供が実現する指摘したことがある（※4）。本学のコモンルーブリック作成プロセスにおいては上記のような機会をあまり持つことができていない。本学の DP が改訂されたことを機に、DP に基づくルーブリックの確立を模索することは、教職員間において DP への具体的な内容への理解を深め、また、各学科の、あるいは大学全体の教育のあり方を考えた上でカリキュラムマネジメントしていくことにつながるのではないだろうか。

加えて、ルーブリックの活用は、ブラックボックス化しがちな成績評価の内容をオープンなものとし、また、学生に成績に対する説明責任を果たす上でも有用となる（※5）。成績評価へのフィードバック活動は今後大学の教育においても重要なものであると考えられ（※6）、学生に対する本学の DP への理解促進など、学生の視点に立った場合においてもルーブリックの確立・活用は今後も継続して検討される必要がある。

## 4 お わ り に

今回報告した資料の内容をふまえ、これから早急に取り組めることは、個々の教員が改訂された DP に応じて、シラバスに明記する担当科目の到達目標をより精査することである。また、すでに実践されていることであるが、個々の科目でルーブリックを用いた評価をおこない、試験後に学生に対してルーブリックを用いたフィードバックを行うことである。これらの細かな活動の実践が、前述したような本格的なカリキュラムマネジメントにつながるような活動への土台を徐々に構築していく。本資料で示した内容をもとに、また、より詳細な分析を通し、今後もルーブリック活用の方途や改善の方向性について考えていきたい。

### 【註】

- ※1 関西国際大学 KUIS 学修ベンチマーク <http://www.kuins.ac.jp/about/target/benchmark.html>
- ※2 鈴木雄清・望月 聡・西野浩明・牧野治敏・岡田正彦（2017）「大分大学における教育の内部質保証の取り組み：全学ディプロマ・ポリシーの見直しとその活用を中心に」『大分大学高等教育開発センター紀要（9）』，1-11.
- ※3 今崎 浩・溝渕 淳（2016）「広島文教女子大学におけるコモンルーブリック開発と実践的展開」『広島文教女子大学高等教育研究（2）』，9-28.
- ※4 溝渕 淳「コモンルーブリックの深化に向けて」広島文教女子大学平成28年度夏季 FD・SD 研修会報告
- ※5 今崎 浩・溝渕 淳（2016）「前掲論文」
- ※6 例えば、文部科学省が実施している「大学における教育内容等の改革状況についての調査」（平成27年度）においても、「三つの方針に基づいた大学教育の質の向上のための各種取組」について、成績に対するフィードバックの実施やシラバスへの記載の有無が調査項目となっている。

—平成30年1月26日 受理—